



ごみを削減することで 得られる効果③

私たちが捨てるごみの行方をご存じですか？私たちが出している燃えるごみは、牛久クリンセンターに搬入し、焼却処理をしています。今回は発生した焼却灰についてお知らせします。

☆焼却灰は北茨城市などで処分
私たちが出しているごみはどこに行き、どのように処理されているのでしょうか？

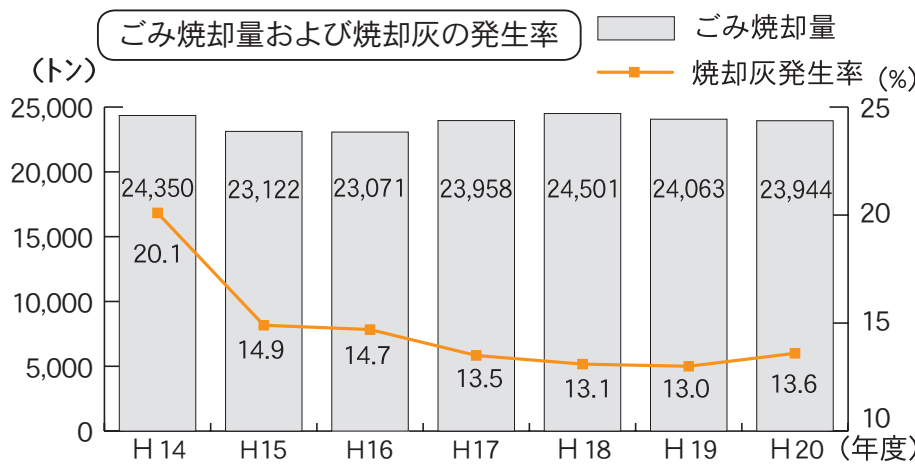
平成20年度に牛久クリンセンターに搬入された可燃ごみは約2万2500トン。不燃物の破砕くずを合わせると約2万4000トンを焼却しています。焼却後には焼却量の約13%に当たる約3200トンの灰が発生してしまいます。これらの焼却灰は、当市に最終処分場がないため、「北茨城市」、「鹿嶋市」、「笠間市」、「山形県米沢市」にある処理施設（財団法人や民間企業）に搬入し処理を行っています。

市では、鹿嶋市と笠間市にある処理施設で7割に当たる約2300トンの焼却灰を高温で溶かした後、冷やし固めたスラグを砕石としてリサイクルする処理方法を活用し、埋め立て量の削減を図っています。

しかし、どうしてもリサイクルに適さない灰は年間量の3割に当たる約9300トン発生し、北茨城市・笠間市・米沢市にある処理施設で埋め立て処分しています。私たちが出したごみが最終的にほかの市町村に搬入され負担を掛けている現実や、最終処分場の受け入れ量には限界があることを理解し、ごみを減らし最終処分場の延命化や二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの発生抑制に努める必要があります。

☆運転技術だけではもはや限界

下のグラフはごみ焼却量および焼却灰の発生率を年度別に表したものです。市では清掃工場操業当時から運転技術の向上に努め焼却灰の発生量を抑制してきましたが、発生率は現在約13%で安定していて技術的な限界と考えています。焼却灰を削減するには、これまでもお伝えしたと



おり、「ごみ」そのものを削減することが必要です。ごみの分別を徹底し、買い過ぎに注意するだけで約6800トンものごみを削減することが可能です。

☆最終処分に係る費用は？
それでは最終処分の費用はどのくらい掛かっているのでしょうか？左

の表は平成20年度の焼却灰の最終処理量および費用です。焼却灰の処理費には年間約1億1千万円もの費用が掛かっています。燃えるごみのうち削減可能な6800トンのごみを減らすことができれば、その13%に当たる約880トンの灰が削減され、最終処理費だけでも約3200万円を削減することができます。処理経費を削減するためにもごみの削減は重要な取り組みとなります。

私たちは生活するためにたくさんの物を購入していますが、商品を購入したとき何がごみになるのか考えてください。商品のほかに過剰な包装紙やレジ袋など、ごみとして捨ててしまうものにもお金を払っていませんか？捨てた後も収集や処理をするためにたくさんのお金が使われています。しかも製造から消費・処理の過程において地球温暖化の原因である温室効果ガスを排出してしまいます。

私たち大人が環境に對しすぐにできること、それはごみを減らすことです！子どもたちの未来のためにライフスタイルを変えてみませんか？

焼却灰に関する年間データ	
焼却灰処理量	3,200トン
焼却灰処理費	115,550千円
1トン当たりの処理費用	約36,000円

問い合わせ 市廃棄物対策課 ☎ 内線1571